

令和7年度 あべの翔学高等学校 学校評価

I めざす学校像

- 1 人徳を経とし実務を緯とする
- 人徳と実務を兼ね備え、将来、社会で貢献できる生徒を育成することを建学の精神とし、「立志、礼節、誠実、勤勉」を校訓とする。
- 2 学力だけでなく「こころ」の面での成長も大切にし、生活指導面での厳しくもきめ細やかな指導をとおして、社会生活に適切に対応し活躍できる生徒を育成する教育活動を実践する。

II 中期的目標

- 1 学力向上
- ベネッセ総合学力テスト偏差値 50 を達成する。
- 2 進路指導
- 生徒・保護者の希望、本人の実力を勘案して、適切な進路指導を行う。
- 3 生徒指導
- 基本的生活習慣の習得
- 4 生徒会・クラブ活動
- 積極的参加させ、生徒会・クラブ活動を通じ、勉学との両立を図りながら、人間関係の構築や協調性・主体性の育成を図る。

III 本年度の取組内容及び自己評価

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価				
Ⅰ 学 力 向 上	基礎学力の向上	特進Ⅰ類、特進Ⅱ類の生徒は総合学力テストを受験し、復習を重ねる。普通進学の生徒は中学の学び直しから始め、基礎力診断テストにより学力を定着させる。	特進Ⅰ、Ⅱ類は、学力テストでの偏差値50を、普通進学は偏差値45の達成を目指す。 基礎力診断テスト偏差値45の達成へ。	特進Ⅰ、Ⅱ類においては、1年次から2年次へと学力の向上がみられる。3年時には各々の受験対策に集中するため、国数英が全体的に下がっているのではないかと推測される。普通進学においては向上が見られず、勉学に対し興味を持ち、基礎学力を更につけていくことが本校の課題である。				
	【Ⅰ・Ⅱ類 ベネッセ総合学力テスト(11月) 普通進学 基礎力診断テスト(4月)】							
		学年	国語		数学		英語	
	現3年生		現2年生	現3年生	現2年生	現3年生	現2年生	
	特進Ⅰ類	1年	42.7	36.8	40.1	41.0	40.3	41.5
		2年	38.9	38.4	53.5	48.4	41.7	45.7
		3年	40.6		41.9		36.6	
	特進Ⅱ類	1年	35.7	34.9	37.7	35.9	39.1	39.6
		2年	37.2	39.5	54.7	36.4	38.9	41.4
		3年	46.4		41.6		36.7	
	普通進学	1年	44.1	36	44.4	35	44.6	35
		2年	41.7	34	43.9	35	44.4	34
		3年	41.3		42.4		43.8	
受験者数		Ⅰ類(現3年)	Ⅰ類(現2年)	Ⅱ類(現3年)	Ⅱ類(現2年)	普進(現3年)	普進(現2年)	
	1年	16	10	36	22	201	214	
	2年	11	11	23	24	200	185	
	3年	8		8		221		

2 進路指導	・進路指導対策の早期実施	・進路希望調査の早期開始、早期対策			・四年制大学進学率向上				令和 8 年 3 月卒業生徒の大学合格数は以下のとおりである。(延べ人数) ・関西大学 2 ・甲南大学 1 ・龍谷大学 10 ・近畿大学 31 ・摂南大学 3 ・追手門大学 27 ・桃山学院大学 19 ・関西外国語大学 2 ・日本体育大学 1 ・大阪体育大学 5	
	【進路結果】※令和7年 12 月末現在									
		進学者				就職者他				合計
		大学	短大	専門	小計	就職	その他	小計		
	卒業生	134	16	104	254	43	5	48		302
	構成比(%)	45%	5%	35%	85%	14%	1%	15%		100%
前年度構成比	49%	5%	29%	83%	13%	4%	17%	100%		
3 生指導	・基本的生活指導の習得		・遅刻指導強化期間の設定 ・服装、身嗜み指導の徹底			・遅刻回数の削減に努める ・通学路立ち番指導 100%			・年6回以上遅刻している生徒の比率が1年生 36%、2 年生 36%、3 年生 41%と今年度は1年生の遅刻が目立つ。3年生の3年次は遅刻回数が減少した。遅刻を減らすことは学校全体の課題であるが、さらに指導を強化し減らす必要がある。 ・毎朝の通学路での指導により、服装は少しずつだが改善されている。 ただ、教員の目が届かないところでの服装の乱れ等をどう減らしていくかが大きな課題である。	
	【学年別・年次別 1 人当たりの平均遅刻回数】 【学年別遅刻回数分析 %】									
		1 年次	2 年次	3 年次		1 年生	2 年生	3 年生		
	3 年生	9.4	9.6	6.0	0 回	25%	29%	33%		
	2 年生	6.4	5.2	-	1 回	26%	22%	11%		
	1 年生	5.8	-	-	2～5 回	13%	13%	15%		
4 生徒会・クラブ活動	・クラブ活動の活性化		・運動部、文化部の大会成績向上 ・クラブ活動をととした人間形成と自己啓発の実施			・クラブ参加率の向上 ・市大会、府大会等での成績向上			大会成績だけを目指すのではなく、大会運営ボランティアを行うなど地域社会への貢献にも力を入れることができた。 ・第19回学童軟式野球全国大会ポップアスリートカップ星野仙一旗争奪 (12 月 6 日・7 日開催)に軟式野球部、チアダンス部が昨年に引き続き参加した。 ・吹奏楽部は、万博に招待され演奏を披露した。 ・今年度は、左記以外にソフトテニス部が大阪私立高等学校総合体育大会 男子団体で準優勝するなど、多くのクラブで昨年以上の実績を上げた。	
	【主なクラブ大会成績】									
	クラブ名	大会名					成績			
	軟式野球部	全国高等学校軟式野球選手権大会					準優勝			
	陸上競技部	大阪高校総体男子砲丸投げ					6 位			
	陸上競技部	大阪インターハイ女子砲丸投げ					7 位			
バドミントン部	第80回大阪高等学校体育大会 男子団体					ベスト 8				
吹奏楽部	日本管楽合奏コンテスト全国大会出場					優秀賞				
チアダンス部	全国大会出場					優秀賞				

IV 総合評価

評価	自己評価	次年度の改善方針
B	昨年同様、現 3 年生へのきめ細かな学習指導、受験対策を行った結果、関西大学に延べ人数 2、龍谷大学に延べ人数 10、甲南大学に延べ人数 1、近畿大学に延べ人数 31 を挙げることができた。また、IT 教育環境の充実、クラブ活動での活躍もあり、令和 7 年度入学者は 319 名となっている。一方で転退学者数は増加傾向であり、原因分析と対策が早急な課題である。	教育環境の充実と共に、教育内容においても生徒の関心、やる気を引き出すことが出来るコンテンツを導入して行く必要がある。 転退学者数の低減を図るため、出席日数不足の生徒や成績が芳しくない生徒に対して今まで以上の個別指導等を行って行く所存である。

V 学校関係者評価

今年度の重点目標	学校関係者評価委員会意見	次年度の改善方策
学力向上	・ベネッセのテストは、全体的に低く思える。 ・コツコツ地道に積み重ねていくしかない。小テストなど増やしてみる、繰り返し学習するように指導してみてもは。 ・生徒一人ひとりの進路実現を見据え、基礎学力の定着と応用力の育成の両立を図った教育活動が行われている点を評価したい。また、進路希望に応じた個別指導など適切な指導が行われていると感じられる。一方、生徒間の学力差や学習への主体性には引き続き課題が見られる。学力の底上げと伸長の両立を図ることを期待したい。	・将来を見通し、その目標に向かって日々取り組んでいる生徒は、さほど多くはない。先ずやりたいことを見つけるよう指導していく。具体的に見つからない生徒には、より選択肢が多い環境に導いていく必要がある。そのためにも毎日の学習が必要不可欠である。
進路指導	・進路未定の生徒・保護者に対して懇談とは別にもっと機会を設けてほしい。 ・オープンキャンパス参加など 1 年生の時から勧めてはどうか。大学などがどんな風に勉強しているか、大学生生活が知られて意欲が高まるのではないか。 ・生徒一人ひとりの進路希望を尊重するとともに、学習状況や適性を的確に把握し、保護者との連携を重視した進路指導が行われている点を評価したい。三社懇談や個別相談を通じて生徒自身が現実的な自己理解を深めながら進路選択に向き合えるよう支援している姿勢がうかがえる。	・大学訪問を1年次から行っているが、大学に興味を持つような事前学習、訪問した後熱が冷めないうちにクラスで意見交換を行うなどクラスの実態に応じた取り組みを行っていく。
生徒指導	・服装について厳しくしているとのことですが、学校訪問時、服装の乱れやメイクが派手で驚いています。 ・遅刻が一番よくないと思われるので、引き続き指導が必要。 ・遅刻の減少及び服装指導の改善については、生徒の基本的な生活習慣や規範意識の定着を図るうえで重要な課題であると考えます。遅刻要因を把握し、生徒一人ひとりに応じた継続的な指導を行うとともに家庭との連携を強化することが望まれる。服装指導については、規則の遵守を求めるだけでなく、その意義や目的を丁寧に伝え、生徒自ら考え行動できるような指導の工夫が必要である。	・規則正しい生活習慣を身に着けるために、入学して早い時期に取り組んでいく必要がある。 ・遅刻に関しては、保護者呼び出しなど引き続き厳しくしていく。 ・社会では、遅刻は信頼を損なう重大なマナー違反であるので、学校での指導に加えて家庭にも協力してもらう。

生徒会・クラブ活動	・野球部、吹奏楽部とても熱心にされていると思います。各クラブ活動の様子をもっとインスタに載せて欲しい。 ・今まで通り練習に励み試合・大会に出場してほしい。地域の方との交流など社会貢献するのはよいことなので、引き続きお願いしたい。 ・クラブ活動の活性化及び大会成績の向上に向けた取り組みは、生徒の意欲向上や学校全体の活力につながる重要な教育活動であると評価できる。計画的な指導体制のもと継続的な練習環境の整備を図り、成果が着実に大会成績へと結びつくよう工夫が求められる。クラブ活動を通して結果だけにとらわれることなく、目標に向かって努力する過程を大切に、生徒一人ひとりが達成感や成長を実感できる指導を継続されることを期待したい。	・例年同様、地域に貢献するボランティア活動を今年度も取り組んでいく。 ・野球部、吹奏楽部に続いて今年度はチアダンス部が全国大会に出場した。結果が出ると生徒は自信にもつながり、成績を維持するためにも今まで以上に頑張るので、他のクラブも全国大会とはいわなくても、昨年の成績を上回るような目標をもって日々の練習を行っていく。
総合評価	・各学年の予定表の変更があれば、早く知らせしてほしい。例えば進路説明会が保護者向けと思い、仕事の休みを入れたが、生徒向けだった。 ・先生と生徒の関係はフランクでよいところだが、勉強と遊びはしっかり区別する指導が必要。 ・本校の教育活動は各分野において、概ね適切に実施されていると評価できる。今後も各取組を相互に関連付けながら、生徒一人ひとりの成長を支える教育活動の更なる充実を期待したい。	・進路に関しては、少しずつではあるがデータにも表れていて効果が出ている。これを更に上げるためにも、日々の生活を大切にしていきたい。 ・一方、中退者が増加している。教師が生徒からのサインが出たらすぐに対応できるように、アンテナを高く張り、教師間の情報交換も積極的に行いたい。